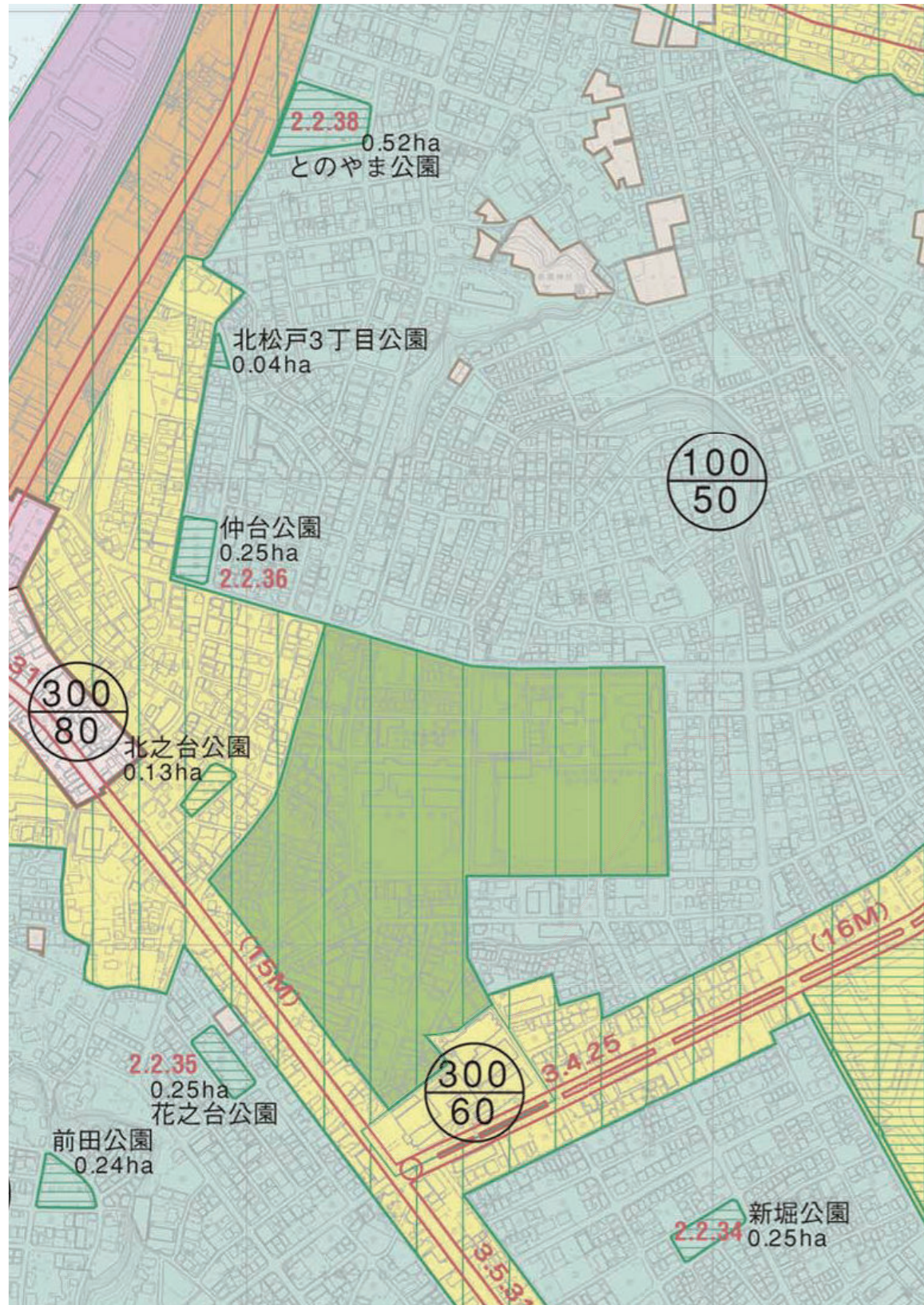


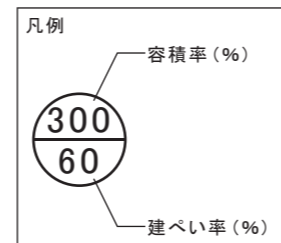
## 第3回 松戸市立病院建替計画検討委員会資料

2010年11月18日

周辺敷地現況図



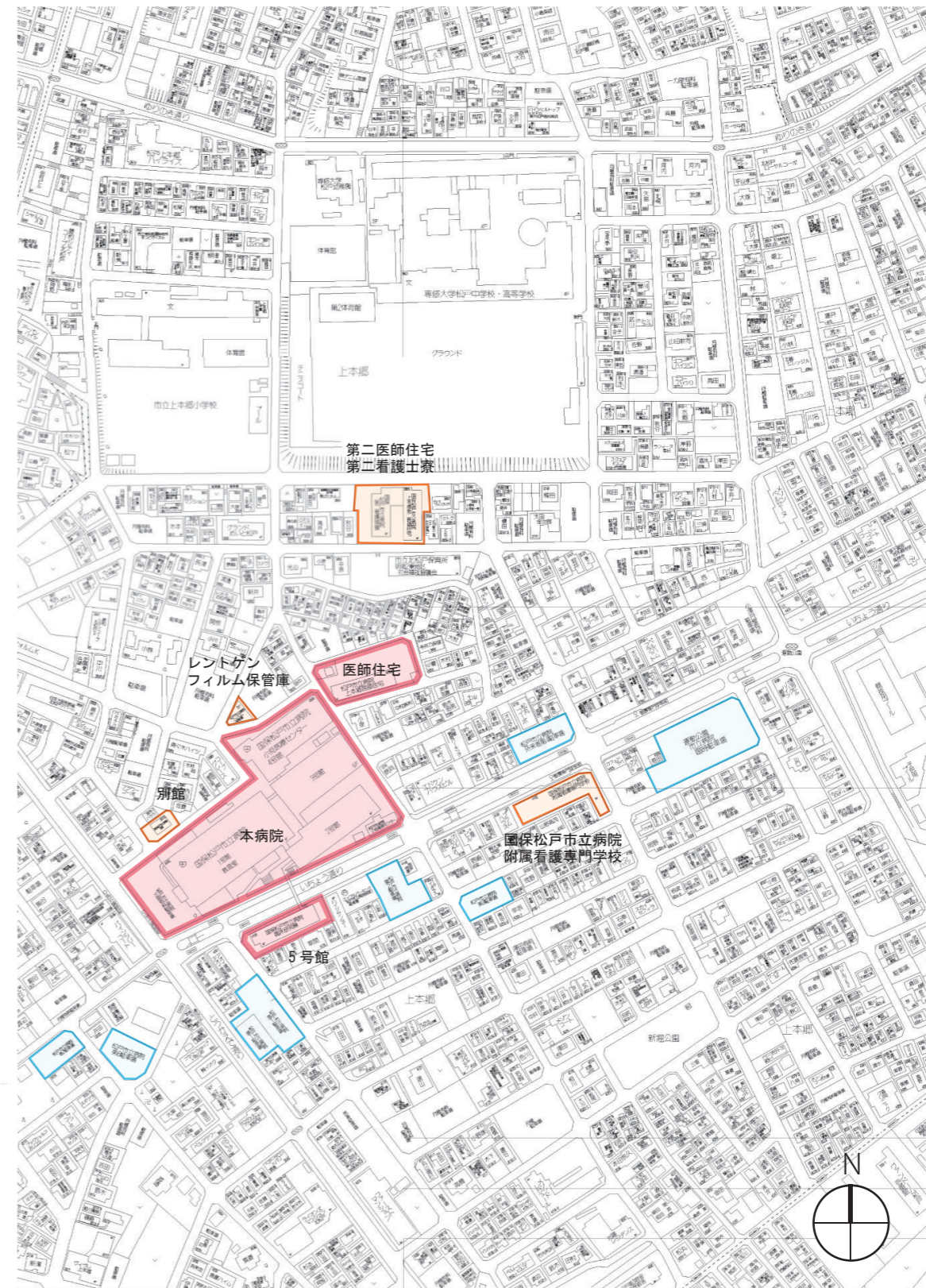
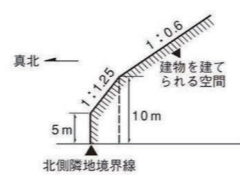
都市計画図 (平成 22 年 3 月 5 日時点)



(注) この都市計画図は、平成22年3月5日現在のものです。

都市計画の種類	表示	概要
都市計画区域	[Symbol]	都市計画区域
市街化区域	[Symbol]	市街化区域
市街化調整区域	[Symbol]	市街化調整区域
用途地域	[Symbol]	用途地域
第一種低層住居専用地域	[Symbol]	第一種低層住居専用地域
第二種低層住居専用地域	[Symbol]	第二種低層住居専用地域
第一種中高層住居専用地域	[Symbol]	第一種中高層住居専用地域
第二種中高層住居専用地域	[Symbol]	第二種中高層住居専用地域
第一種住居地域	[Symbol]	第一種住居地域
第二種住居地域	[Symbol]	第二種住居地域
準住居地域	[Symbol]	準住居地域
近隣商業地域	[Symbol]	近隣商業地域
商業地域	[Symbol]	商業地域
準工業地域	[Symbol]	準工業地域
工業専用地域	[Symbol]	工業専用地域
防火地域	[Symbol]	防火地域
準防火地域	[Symbol]	準防火地域
第一種高度地区	[Symbol]	第一種高度地区 (注) 1
第二種高度地区	[Symbol]	第二種高度地区 (注) 2
高度利用地区	[Symbol]	高度利用地区
特定街区	[Symbol]	特定街区
特別緑地保全地区	[Symbol]	特別緑地保全地区
生産緑地地区	[Symbol]	生産緑地地区
駐車場整備地区	[Symbol]	駐車場整備地区
都市計画道路	[Symbol]	都市計画道路
都市計画駐車場	[Symbol]	都市計画駐車場
都市計画公園	[Symbol]	都市計画公園
都市計画緑地	[Symbol]	都市計画緑地 (完成区域)
公共下水道排水区域	[Symbol]	公共下水道排水区域
都市計画供給処理施設	[Symbol]	都市計画供給処理施設
その他の都市計画施設	[Symbol]	その他の都市計画施設
土地区画整理区域	[Symbol]	土地区画整理区域
地区計画区域	[Symbol]	地区計画区域

(注) 1



松戸市立病院建物等配置図

- 現地建替  
利用想定敷地
- 現病院関連  
施設
- 現病院利用  
駐車場

現況分析

□現況配置図



□松戸市立病院現況（本病院敷地のみ）

敷地面積：13,583.75㎡  
 建築面積：7,410.84㎡  
 延べ面積：29,507.38㎡  
 建ぺい率：約54.55% <60%+10%（角地緩和）  
 容積率：約217.22% <30%

□許可病床数：総数613床  
 （一般病床605床・感染症病床8床）  
 1床あたり面積：約51.7㎡/床（5号館面積を含む）

□病院概要

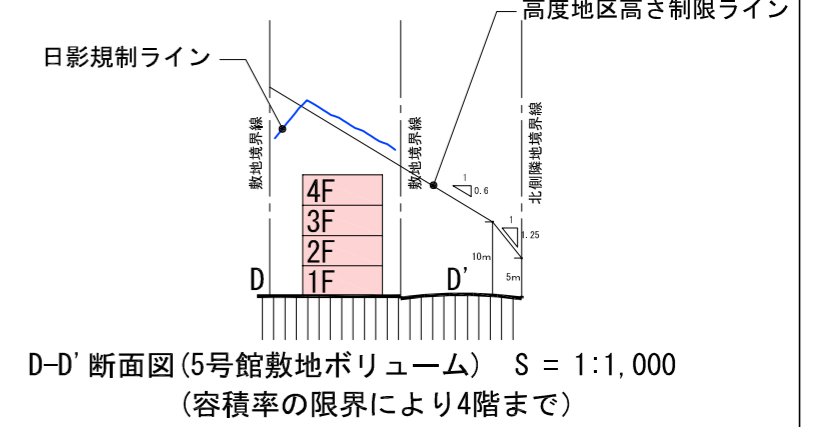
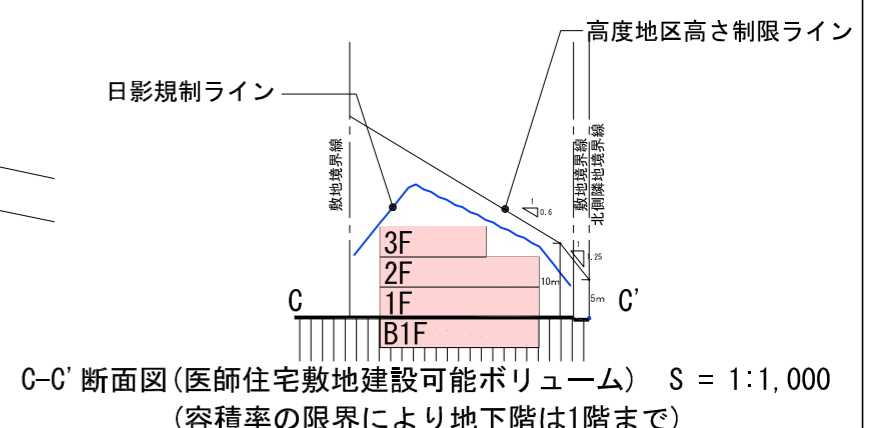
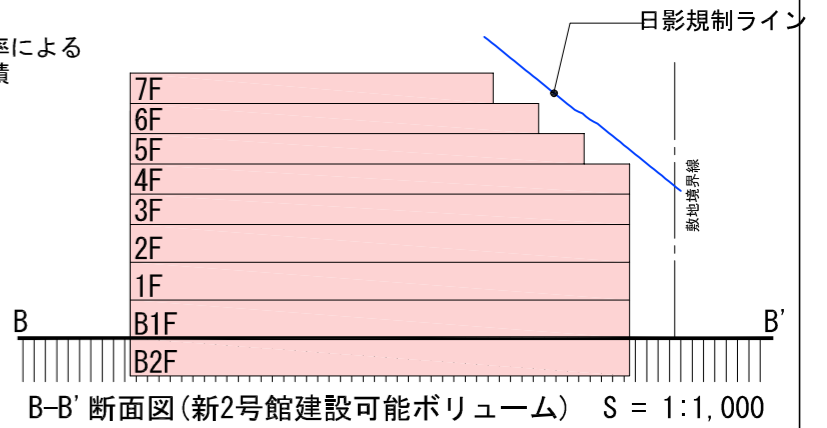
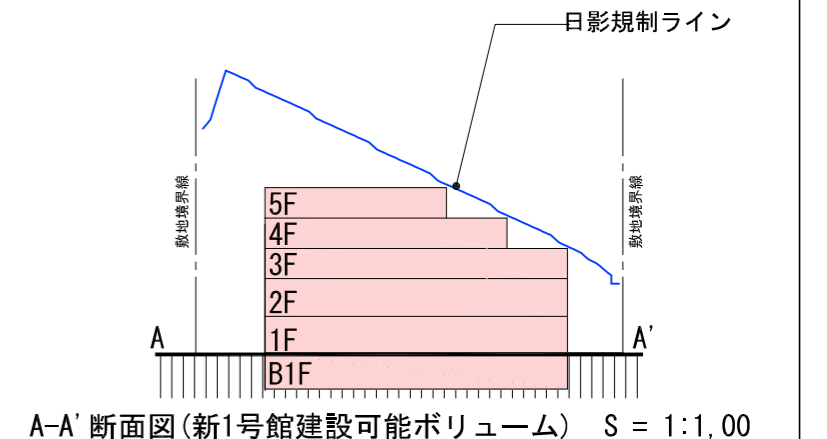
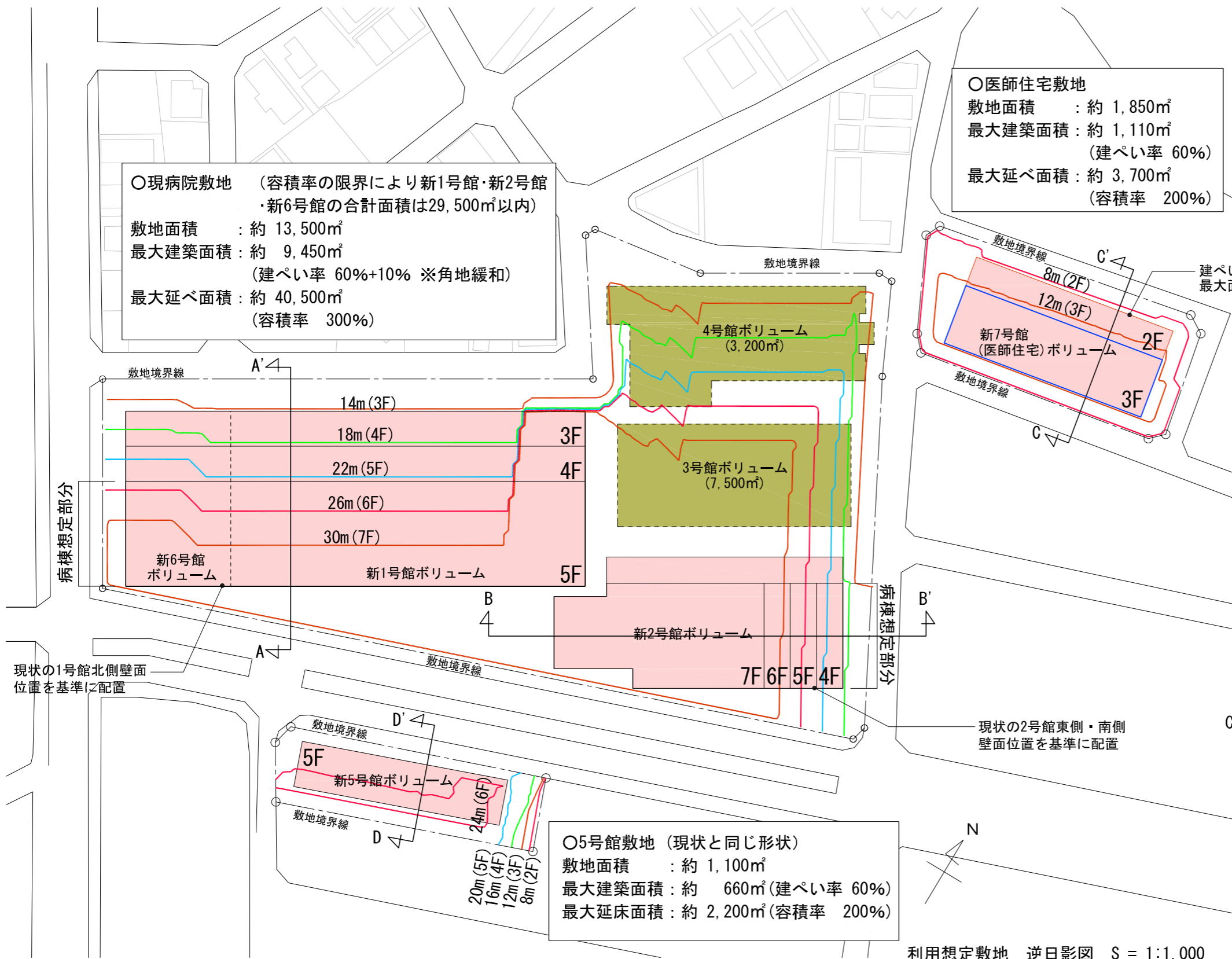
名称 国保松戸市立病院  
 所在地 〒271-8511 千葉県松戸市上本郷4005番地  
 診療科目 内科・外科・小児科・産婦人科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科  
 泌尿器科・リハビリテーション科・放射線科・脳神経外科  
 皮膚科・神経内科・循環器科・麻酔科・小児外科（新生児科）  
 心臓血管外科・消化器科・麻酔科・形成外科・精神科・呼吸器科  
 （血液内科） 計23科1部（救急部）  
 指定病院等 臨床研修指定病院・臨床修練指定病院・地域医療研修センター  
 各学会認定研修病院・第3次救命救急センター・小児医療センター  
 千葉県災害拠点病院・中国ハルビン医科大学第一臨床医学院姉妹病院  
 臓器提供施設・地域がん診療連携拠点病院・第二種感染症指定医療機関  
 日本医療機能評価機構認定病院

棟(号)別名称	1号館	2号館	3号館	4号館	5号館(別敷地)	医師住宅(別敷地)	計
断面構成	▼7F	機械	機械				
	▼6F	フィルム	機械	高架水槽			
	▼5F	病棟(35) 病棟(60)	会議・食堂	電気・機械			
	▼4F	病棟(50) 病棟(50)	管理	病棟(43)			
	▼3F	病棟(50) 病棟(22) 当直	病棟(44)	病棟(24) リハビリ		部長室	
	▼2F	産科病棟(31) ICU(10) 化学 ME	病棟(56)	手術		研究室	
	▼1F	地域・外来・医事 薬 外来 救急・内視	外来	放射線・画像	病棟(60)	図書・医局・宿泊	医師住宅(18戸)
	▼B1F	給食 機械・倉庫 MRI	RI・霊安 感染(8)	検体・細菌・画像	健診 新生児病棟(70)	検体 研究関係	
	▼B2F		熱源機械・中央監視	放射線 中材・機械	当直・調乳・機械	更衣・機械	
	建築面積	3,401.44㎡	1,290.45㎡	1,333.49㎡	1,385.46㎡	544.03㎡(別敷地)	397.00㎡(別敷地)
延床面積	11,479.36㎡	7,324.12㎡	7,521.90㎡	3,182.00㎡	2,188.58㎡(別敷地)	1,178.16㎡(別敷地)	32,974.12㎡
構造	RC造 地上5F 塔屋2F / B1F	RC造 地上6F 塔屋2F / B2F	RC造 地上4F 塔屋2F / B2F	RC造・一部鉄骨造 地上1F / B1F	RC造・一部鉄骨造 地上4F / B1F	RC造 地上3F	
病床数	308	100(+感染8)	67	130	0	0	613 (一般605+感染8)
築年	S42	S55	H1	S58	S62	S57	
備考	・旧耐震基準※2。 ・Is値(耐震指標※1)は0.2である。	・旧耐震基準※2。 ・Is値(耐震指標※1)は0.64である。	・新耐震基準※2。	・新耐震基準※2。	・新耐震基準※2。	・新耐震基準※2。	

※1 Is値とは、建物の強度や粘りに加え、その形状や経年状況を考慮した耐震指標のこと。Is値≥0.6の安全性は「地震の振動及び衝撃に対し崩壊し、又は崩壊する危険性が低い」と評価される。

※2 耐震基準とは、一定の強さの地震が起きても倒壊または損壊しない住宅が建築されるよう、建築基準法が定めている基準のこと。建築基準法の耐震基準は昭和56年(1981年)に抜本的に改正され、これ以降の基準を「新耐震基準」という。

建設可能ボリューム検討



利用想定敷地 逆日影図 S = 1:1,000  
 ※逆日影とは、建築物の高さを制限する規制のひとつである日影規制(建築基準法第56条の2)を考慮し、敷地に対しての建築可能ボリュームを算出するもの。

検討建替案の計画と課題

建替計画の前提

1. 医療・看護、病院運営への影響を最小限とするため、建替え計画途中の病床数の大幅減少及び診療機能の停止・分断等のない様に計画を行う。
2. 仮設建物、既存建物に対する一時改修等を極力避ける計画とし、無駄な投資をできるだけ少なくする。
3. 患者・家族・職員の安全第一に考え、工事範囲を限定し搬入ルート等が病院動線と交錯しない計画を行う。
4. 病院の主たる機能である外来診療部門、中央診療部門、病棟部門を現病院敷地内で成立する計画とする。

※1 新築棟の1病棟当たりの病床数を42床に想定した場合の病床数。

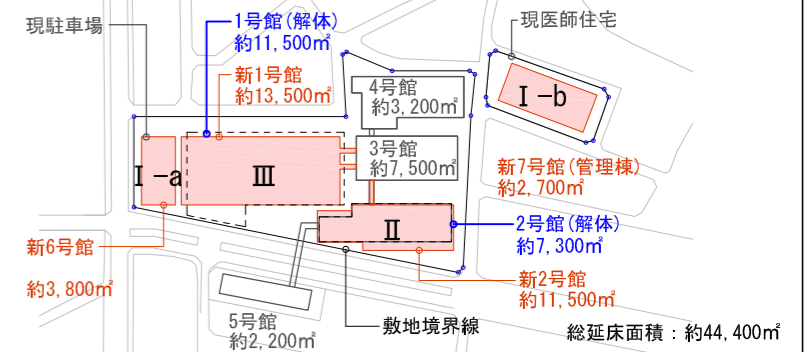
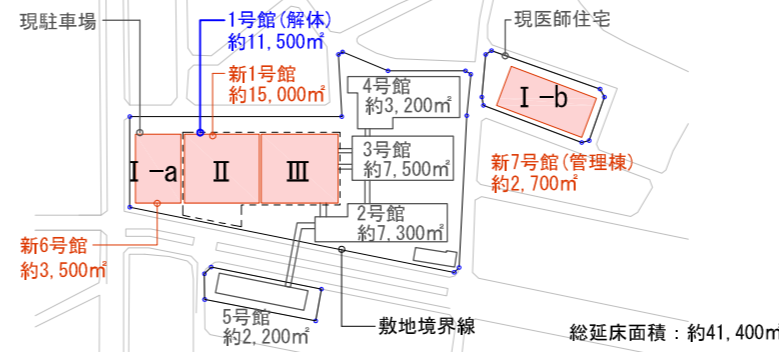
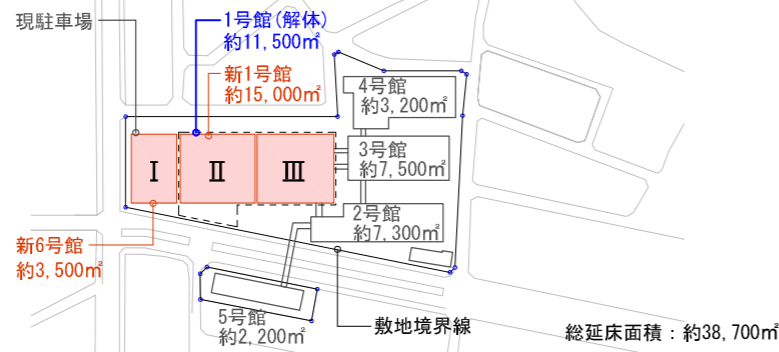
検討建替案

A案[現敷地利用+1号館建替案]

B案[現敷地・医師住宅敷地併用+1号館建替案]

C案[現敷地・医師住宅敷地併用+1号館・2号館建替案]

内容



I 期工事:西側駐車場敷地に新棟を建設。(新6号館)  
II 期工事:1号館西半分を解体後、新1号館西を建設。  
III 期工事:1号館東半分を解体後、新1号館東を建設。

I 期工事:西側駐車場敷地・現医師住宅敷地に新棟を建設。(新6号館・新7号館)  
II 期工事:1号館西半分を解体後、新1号館西を建設。  
III 期工事:1号館東半分を解体後、新1号館東を建設。

I 期工事:西側駐車場敷地・現医師住宅敷地に新棟を建設。(新6号館・新7号館)  
II 期工事:2号館を解体後、新2号館を建設。  
III 期工事:1号館を一括解体後、新1号館を建設。

工事工期

約5.5年(66ヵ月)

約6.5年(78ヵ月)

約6年(72ヵ月)

病床数

工事中

450床程度(※1 440床程度)

470床程度(※1 460床程度)

420床程度(※1 410床程度)(新2号館4床室を1時期6床室として対応した場合は480床程度)

最終形

520床程度(※1 500床程度)

540床程度(※1 520床程度)

610床程度(※1 590床程度)

m<sup>2</sup>/床

約74m<sup>2</sup>/床(=38,700m<sup>2</sup>÷520床)

約76m<sup>2</sup>/床(=41,400m<sup>2</sup>÷540床)

約72m<sup>2</sup>/床(=44,400m<sup>2</sup>÷610床)

配置構成  
ブロック計画

- ・産科病棟を別途改修・仮設等にて対応する必要がある。
- ・給食部門の面積減少に伴い、厨房システムを検討する必要がある。
- ・渡り廊下設置に伴い、診療記録管理室(別棟)と設備切回しが必要である。
- ・ME・救急・ICUと手術部門(3号館)との連携が難しい。
- ・1号館解体・新1号館建設の期間中、外来部門が新6号館・2号館に分散する。

- ・給食部門の面積減少に伴い、厨房システムを検討する必要がある。
- ・渡り廊下設置に伴い、診療記録管理室(別棟)と設備切回しが必要である。
- ・ME・救急・ICUと手術部門(3号館)との連携が難しい。
- ・1号館解体・新1号館建設の期間中、外来部門が新6号館・2号館に分散する。

- ・救急部門と手術部門の連携が、工事中も確保できる。
- ・新1号館の工事中、外来部門が新6号館・新2号館に分散する。

動線計画

- ・給食部門、薬剤部門への搬入動線を検討する必要がある。
- ・給食部門、薬剤部門から各部門への配給動線が非常に長い。
- ・新6号館と3号館を接続する仮設渡り廊下が長い。

- ・給食部門、薬剤部門への搬入動線を検討する必要がある。
- ・給食部門、薬剤部門から各部門への配給動線が非常に長い。
- ・新6号館と3号館を接続する仮設渡り廊下が長い。

- ・給食部門、薬剤部門から各部門への効率的な配給ができる。
- ・RI測定室と中央診療部門の距離がある。
- ・工事中、豊安出口を検討する必要がある。
- ・新6号館と3号館を接続する仮設渡り廊下が長い。

構造計画

- ・新1号館は1/2毎の施工、1号館は1/2毎の解体となり、工事期間中の仮使用時における安全性の確保のため、補強工事の可能性がある。
- ・2、3号館は、既存適及が必要となる。

- ・新1号館は1/2毎の施工、1号館は1/2毎の解体となり、工事期間中の仮使用時における安全性の確保のため補強工事が必要となる。
- ・2、3号館は、既存適及が必要となる。

- ・新1号館、新2号館の耐震性を確保できる。
- ・3号館の既存適及が必要となる。

電気設備計画

- ・屋外キュービクルと仮設渡り廊下の干渉が予想され、仮設キュービクル設置の可能性がある。
- ・新6号館に新設受変電設備を設置し引き込み点の変更を行う。

- ・屋外キュービクルと仮設廊下の干渉が予想され、仮設キュービクル設置の可能性がある。
- ・新6号館に新設受変電設備を設置し引き込み点の変更を行う。
- ・新7号館に新規に電力受電し新設受変電設備を設置する。

- ・屋外キュービクルと仮設渡り廊下の干渉が予想され、仮設キュービクル設置の可能性がある。
- ・新6号館に新設受変電設備設置し引き込み点の変更を行う。
- ・新7号館に新規に電力受電し新設受変電設備を設置する。

機械設備計画

- ・新6号館建設エリアにある屋外排水管の切回しを行なう必要がある。
- ・診療記録管理室(別棟)地下にある1号館用排水管は存置する。
- ・新6号館に新1号館を含めた機械室を設置する必要がある。

- ・新6号館建設エリアにある屋外排水管の切回しを行なう必要がある。
- ・診療記録管理室(別棟)地下にある1号館用排水管は存置する。
- ・新6号館に新1号館を含めた機械室を設置する必要がある。
- ・新7号館の設備は独立して設置する。

- ・新6号館建設エリアにある屋外排水管の切回しを行なう必要がある。
- ・診療記録管理室(別棟)地下にある1号館用排水管は存置する。
- ・新6号館建設後、1号館へエネルギーを供給する仮設切回しが必要である。
- ・新7号館の設備は独立して設置する。

将来対応

- ・現4号館1階新生児病棟部分を移設し、将来対応スペースができる。
- ・将来建替用スペースに関しては別途確保する必要がある。

- ・現4号館1階新生児病棟部分を移設し、将来対応スペースができる。
- ・将来建替用スペースに関しては別途確保する必要がある。

- ・4号館小児病棟、新生児病棟を移設し、将来対応スペースができる。

コスト

90 (B案と比較)

100 (この案を基準とする)

110 (B案と比較)

総合

- ・産科病棟の仮設、給食・薬剤部門の動線、救急・手術・MEの連携(工事中)を検討する必要がある。
- ・耐震改修の技術的な検討が必要である。

- ・給食・薬剤部門の動線、救急・手術・MEの連携(工事中)を検討する必要がある。
- ・耐震改修の技術的な検討が必要である。

- ・RI測定室の配置、豊安出口等の工事中の課題を検討する必要がある。
- ・4号館全館を将来対応スペースとして確保できる。

A案 [現敷地利用+1号館建替え案] 建替フロー図

**凡例**  
■ 新設建物 ■ 改修又は補強 ■ 解体撤去  
→ 移設又は引越し

**○特徴**  
 1. 現敷地内で建替え計画を行う。  
 2. 最小限の改修工事で最大の建替え効果を目指す。  
 3. 1号館の建替えと既設棟の改修を行う。

**[計画全体]**  
 ・建築面積 : 約8,250㎡  
 ・延べ面積 : 約38,700㎡  
 ・1床当り面積 : 74.4㎡/床

**[現病院敷地]**  
 ・建築面積: 約 7,700㎡ (建ぺい率 : 約57%)  
 ・延べ面積: 約36,500㎡ (容積率 : 約269%)

**[5号館敷地(既存)]**  
 ・建築面積: 約 550㎡ (建ぺい率 : 約50%)  
 ・延べ面積: 約2,200㎡ (容積率 : 約200%)

---

**I 期工事**  
 ①建設: 新6号館の建設  
 仮設渡り廊下を設置  
 ②移設: 1号館西→新6号館へ移設  
 [外来・医事・地域連携・厨房・薬剤・機械] (-166床)  
 ◇給食部門の面積減少により厨房システムの検討が必要。  
 ◇病床数の減少が発生する。  
 ◇産科病棟を別途改修・仮設等により設置する必要がある。  
 ◇渡廊下設置に伴い診療記録管理室と設備の切回しが必要。  
 新6号館建設 約450床

▼7F	機械	機械	高架水槽		
▼6F	フィルム	機械	電気・機械		
▼5F	病棟(35)	会議・食堂	病棟(43)		
▼4F	病棟(50)	管理	病棟(24)・リハ		
▼3F	病棟(50)	当直・病棟(22)	手術		
▼2F	産科病棟(31)	ICU(10)・化学・ME	病棟(56)		
▼1F	地・医事	外来・救急・内視	外来		
▼B1F	給食	給食	放射線・画像	病棟(60)	部長室
▼B2F	薬・機械	機械・倉庫・MRI	検体・細菌・画像	健診・新生児病棟(70)	図書・医局・宿泊
			放射線・中材・機械	当直・調乳・機械	検体・研究関係
					更衣・機械

**II 期工事**  
 ③改修: 1号館(東)の一部耐震補強  
 ④解体: 1号館(西)の解体撤去  
 1号館(東)耐震補強・1号館(西)解体 約450床

▼7F		機械	高架水槽		
▼6F		フィルム	電気・機械		
▼5F	事務	病棟(35)	病棟(43)		
▼4F	外来	病棟(50)	病棟(24)・リハ		
▼3F	外来	産科病棟(31)	手術		
▼2F	外来	ICU(10)・化学・ME	病棟(56)		
▼1F	地・医事	地域・外来・医事・薬	外来		
▼B1F	給食	給食	放射線・画像	病棟(60)	部長室
▼B2F	薬・機械	機械・倉庫・MRI	検体・細菌・画像	健診・新生児病棟(70)	図書・医局・宿泊
			放射線・中材・機械	当直・調乳・機械	検体・研究関係
					更衣・機械

**III 期工事**  
 ⑤建設: 新1号館(西)の建設(+145床)  
 ⑥移設: 1号館(東)→新1号館(西)へ移設  
 [外来・救急・集中治療・化学療法内視鏡・ME・MRI・倉庫・機械病棟] (-141床)  
 ※ME・救急・ICUと手術部門(3号館)との連携が難しい。  
 新1号館(西)建設 約450床

▼7F		機械	高架水槽		
▼6F		フィルム	電気・機械		
▼5F	事務	病棟(45)	病棟(43)		
▼4F	外来	病棟(45)	病棟(24)・リハ		
▼3F	外来	ICU(10)・化学・内視・ME	手術		
▼2F	外来	ICU(10)・化学・ME	病棟(56)		
▼1F	地・医事	外来・救急	外来		
▼B1F	給食	MRI・倉庫・機械	放射線・画像	病棟(60)	部長室
▼B2F	薬・機械	機械・倉庫・MRI	検体・細菌・画像	健診・新生児病棟(70)	図書・医局・宿泊
			放射線・中材・機械	当直・調乳・機械	検体・研究関係
					更衣・機械

**竣工時**  
 ⑦解体: 1号館(東)の解体撤去  
 1号館(東)解体 約450床

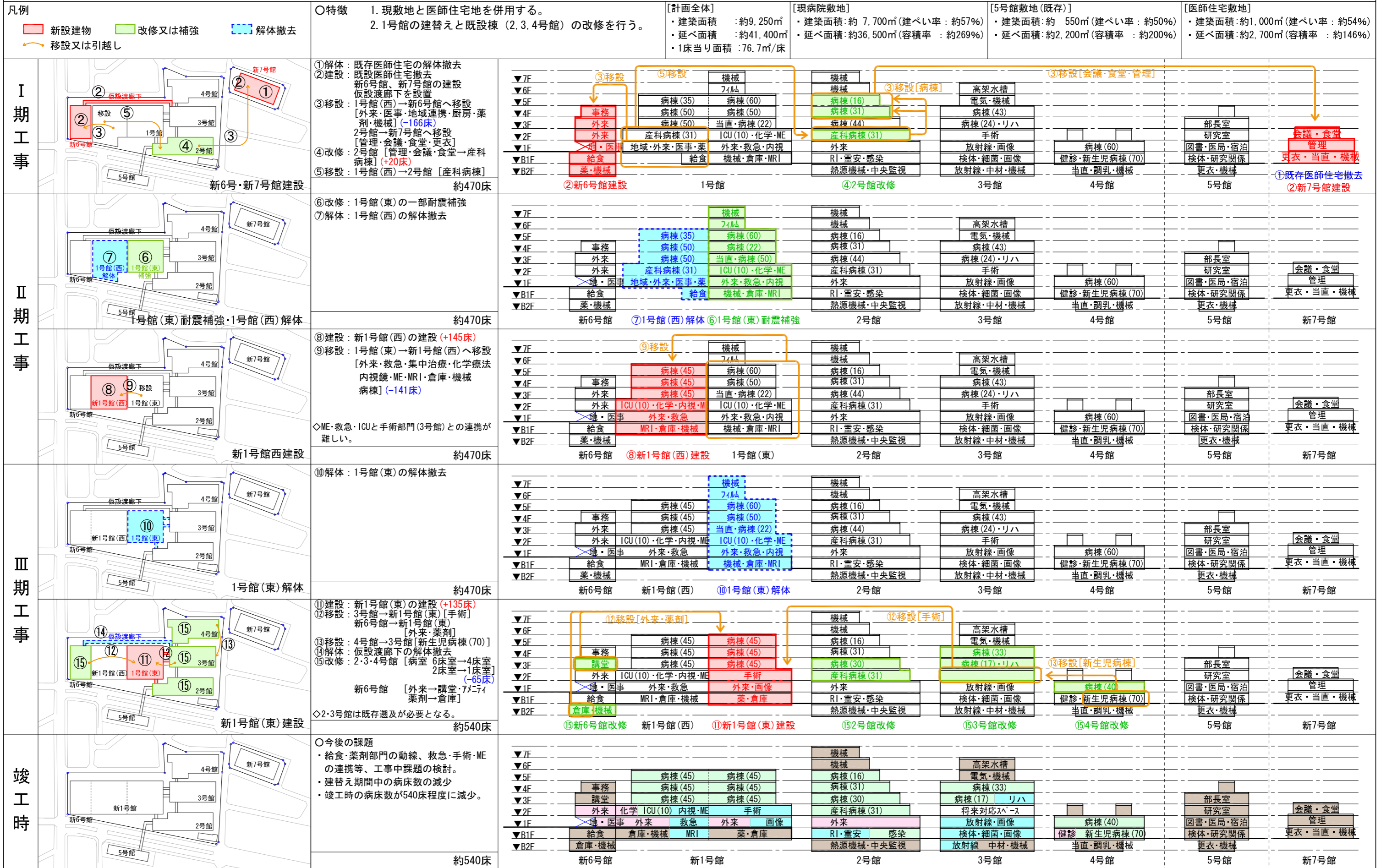
▼7F		機械	高架水槽		
▼6F		フィルム	電気・機械		
▼5F	事務	病棟(45)	病棟(43)		
▼4F	外来	病棟(45)	病棟(24)・リハ		
▼3F	外来	ICU(10)・化学・内視・ME	手術		
▼2F	外来	ICU(10)・化学・ME	病棟(56)		
▼1F	地・医事	外来・救急	外来		
▼B1F	給食	MRI・倉庫・機械	放射線・画像	病棟(60)	部長室
▼B2F	薬・機械	機械・倉庫・MRI	検体・細菌・画像	健診・新生児病棟(70)	図書・医局・宿泊
			放射線・中材・機械	当直・調乳・機械	検体・研究関係
					更衣・機械

**新1号館(東)建設** 約520床

▼7F			高架水槽		
▼6F			電気・機械		
▼5F	講堂	病棟(45)	病棟(33)		
▼4F	講堂	病棟(45)	病棟(17)・リハ		
▼3F	講堂	病棟(45)	新生児病棟(70)		
▼2F	講堂	病棟(45)	病棟(41)		
▼1F	講堂	化学 ICU(10) 内視・ME	手術		
▼B1F	講堂	化学 ICU(10) 内視・ME	手術		
▼B2F	講堂	化学 ICU(10) 内視・ME	手術		

**○今後の課題**  
 ・産科病棟の仮設、給食・薬剤部門の動線、救急・手術・MEの連携等、工事中課題の検討。  
 ・建替え期間中の病床数の減少。  
 ・竣工時の病床数が520床程度に減少。

B案 [現敷地・医師住宅地併用+1号館建替え案] 建替フロー図



C案 [現敷地・医師住宅地併用+1号館・2号館建替え案] 建替フロー図

